

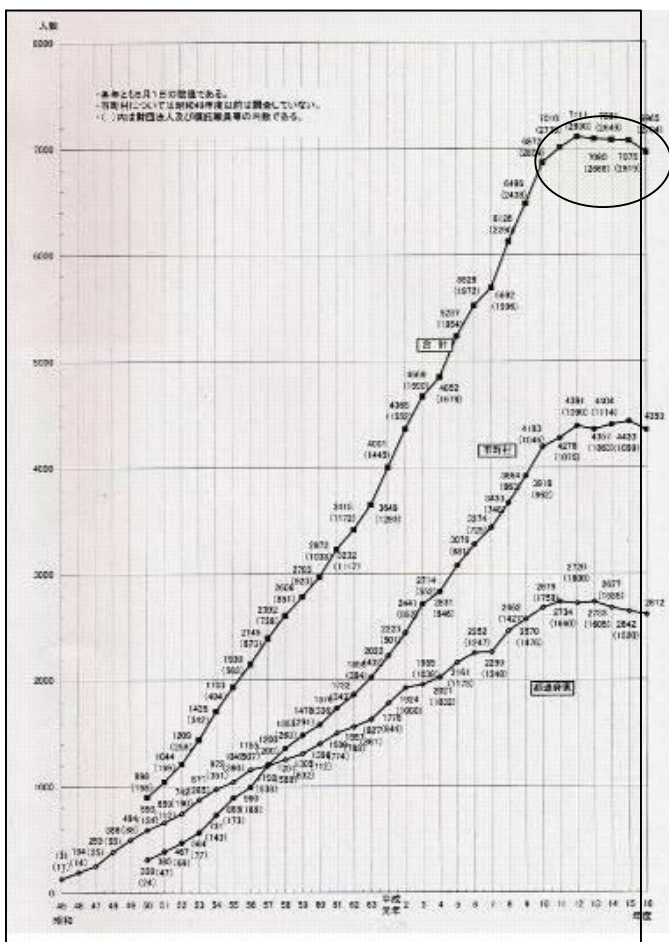
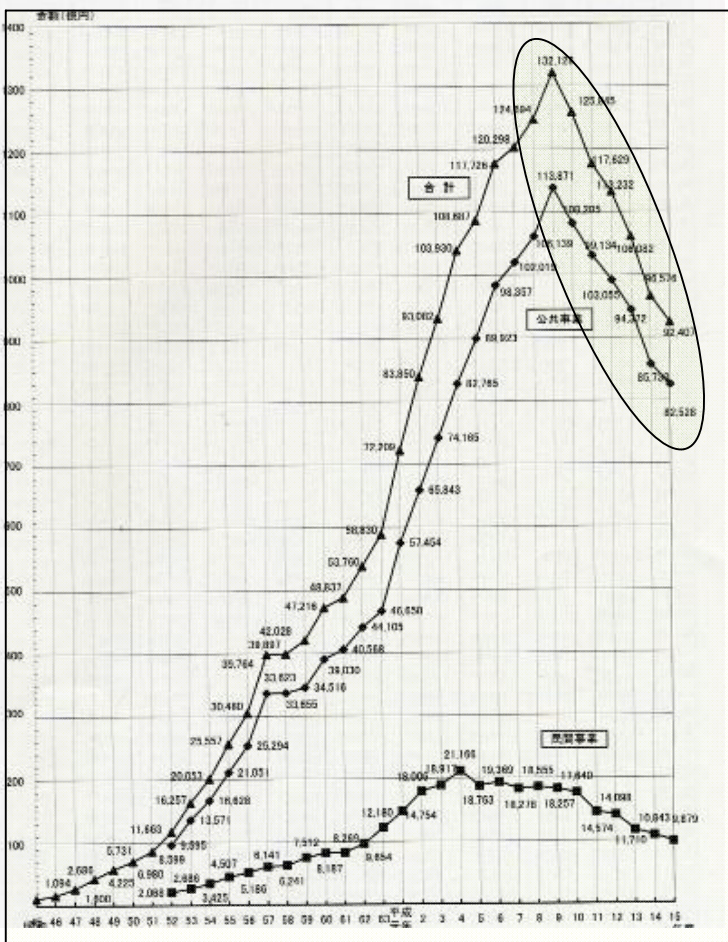
古墳時代の「地域」3題

広瀬和雄(日本歴史研究専攻・

国立歴史民俗博物館)

1 <地域性と多様性>が近年の研究キーワード

- (1) 分析的研究が主流で、統合的研究は少ない。体系的指向性も強くない。地域社会の再生産システムまでは届かない。
- (2) 「記録保存」のための発掘調査が自治体単位で実施され、研究も自治体ごとに進行しがち。他地域への関心は低く、地域を超える動向には関心が低い。
- (3) 地域の遺跡・遺物の特徴と通説的解釈が乖離したまま接合されている。地域が並列・等質化され、大きなまとまりは出てこない。



- 1997年度の調査経費は1320億円。
- 1999年の専門職員は7000人。
- 2007年末の出土品累計は約740万箱(60×40×15cm)。

緊急発掘調査費用(左)と埋蔵文化財担当専門職員(右)の推移 1

2 <共通性と階層性を見せる墳墓>が 前方後円墳

(1)前方後円墳祭祀の共有にもとづく<われわれ意識>を表象し、前方後円墳国家のメンバーシップを体現したのが前方後円墳。

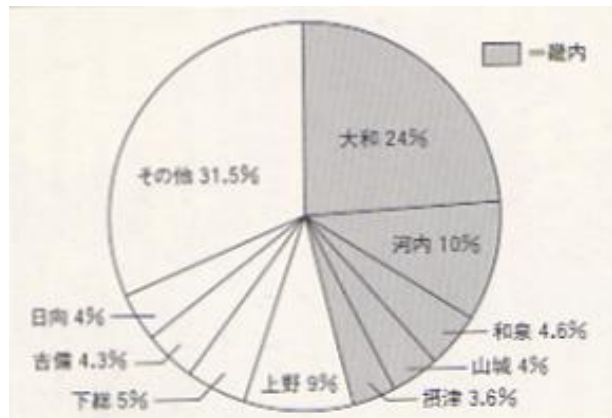
それは『目で見える前方後円墳国家』として機能した。

復元された兵庫県・五色塚古墳(右・墳長190m)と
群馬県・保渡田八幡塚古墳(下・墳長96m)

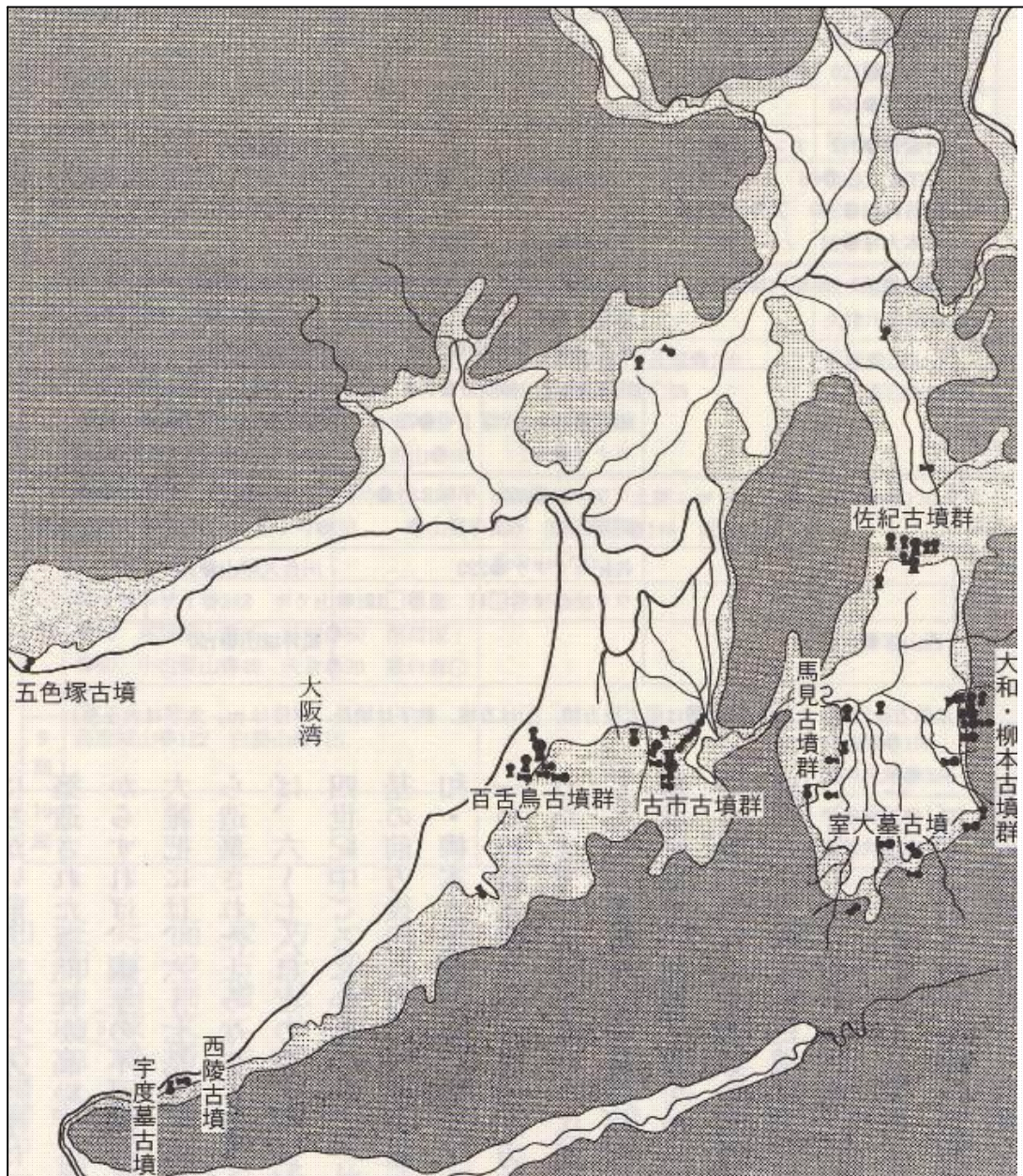


(2) 3世紀中頃～7世紀初め頃の350年間、北海道・北東北と沖縄を除いた地域で、前方後円(方)墳は約5200基、築造された。
 墳長200m以上の巨大前方後円墳32/35基、100m以上の大型前方後円墳140/302基は、畿内5大古墳群などに集中していた。
 古墳時代には〈中央—地方〉の政治的な関係が成立。

| | 全国 | 畿内 | 吉備 | 上野 |
|-------|------|------|-----|-----|
| 超200m | 35基 | 32基 | 2基 | 1基 |
| 超100m | 302基 | 140基 | 14基 | 27基 |



墳長100m以上の前方後円(方)墳

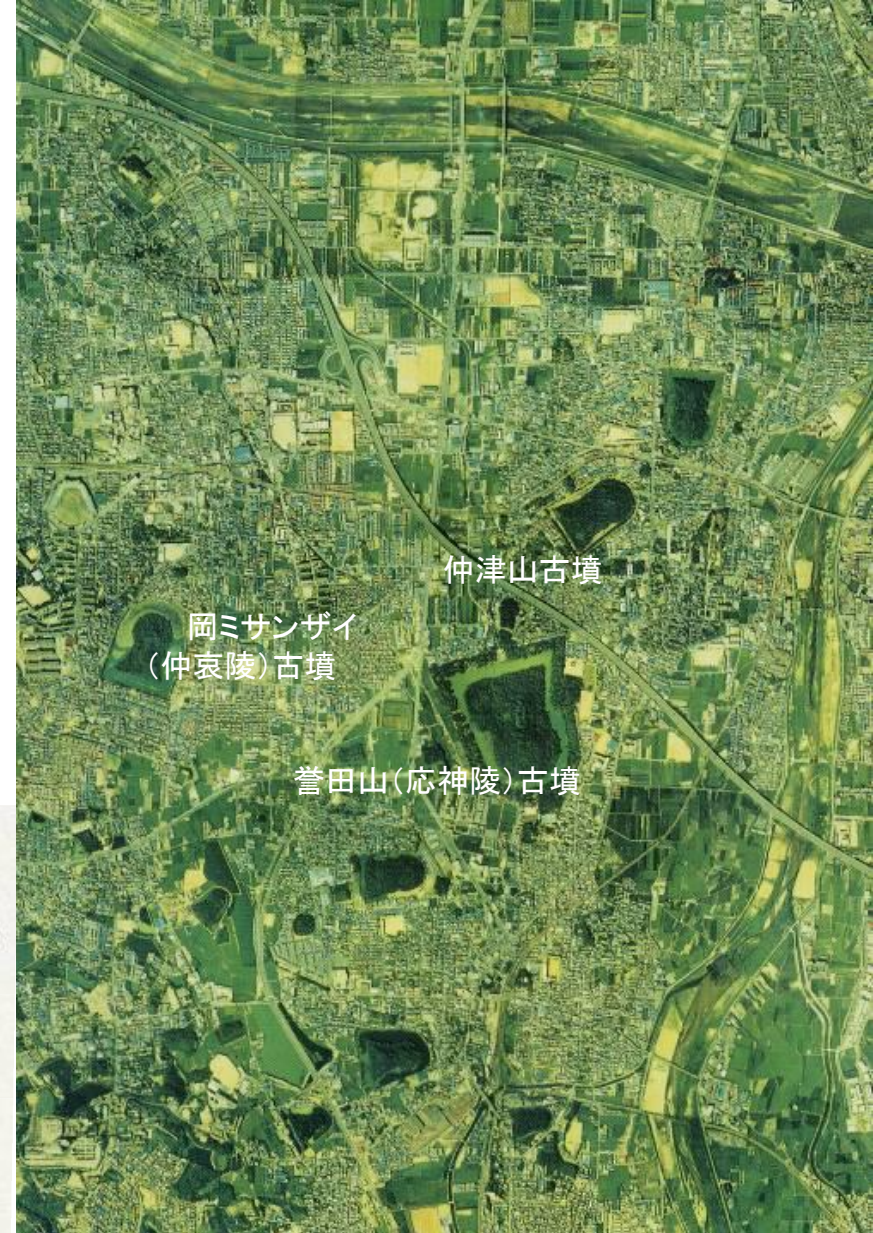


畿内5大古墳群の分布 3

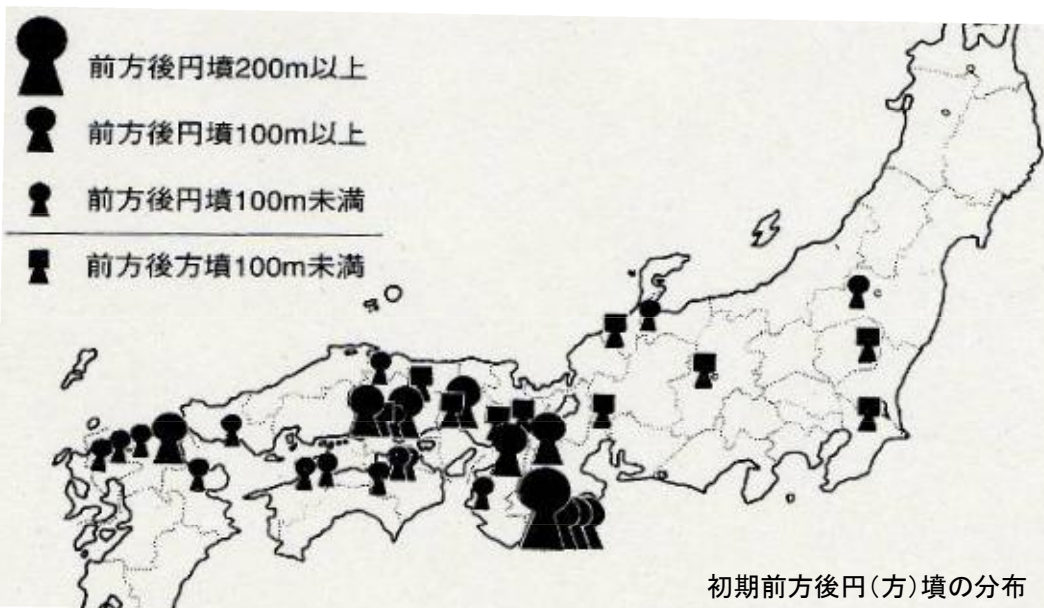
(3) 稀少な資源(鉄など)、高度な技術(渡来人など)、情報(大陸など)をめぐって、首長同士の政治的まとまりが、3世紀中頃に結成された。

それは<一定の領域をもって、軍事力と外交権とイデオロギー的一体性をそなえた首長層の利益共同体>で、畿内の有力首長層が運営した国家とよぶべき政治団体であった。ただ、地方首長層の自律度が高い分権国家でもあった。

(4) 各地の首長層は、前方後円墳で<中央とのつながり>と<前代とのつながり>を見せ、前方後円墳連鎖で<われわれ意識>が再生産されつづけた。



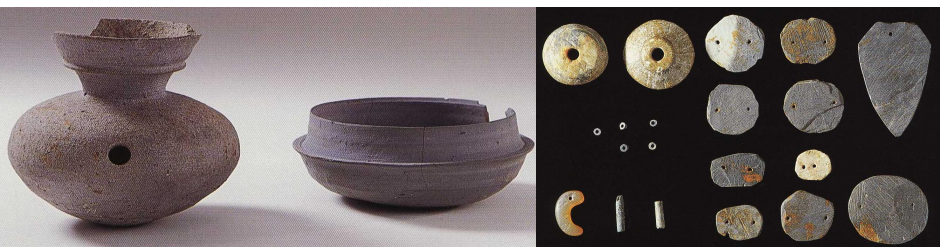
大阪府古市古墳群



3 前方後円墳国家と律令国家の 国家フロンティア

(1) 5世紀の岩手県盛岡市中半入(なかはんにゅう)遺跡では、前方後円墳国家からの鉄製品・須恵器と、北東北の続縄文文化(採集・狩猟・漁労の文化)からの皮革製品・琥珀が交易されていた。

(2) 日本列島の古墳時代には、北から続縄文文化、古墳文化、貝塚後期文化という異質な文化が交通しながら共存していた。それらに支配—服属の関係はなかった。



続縄文文化

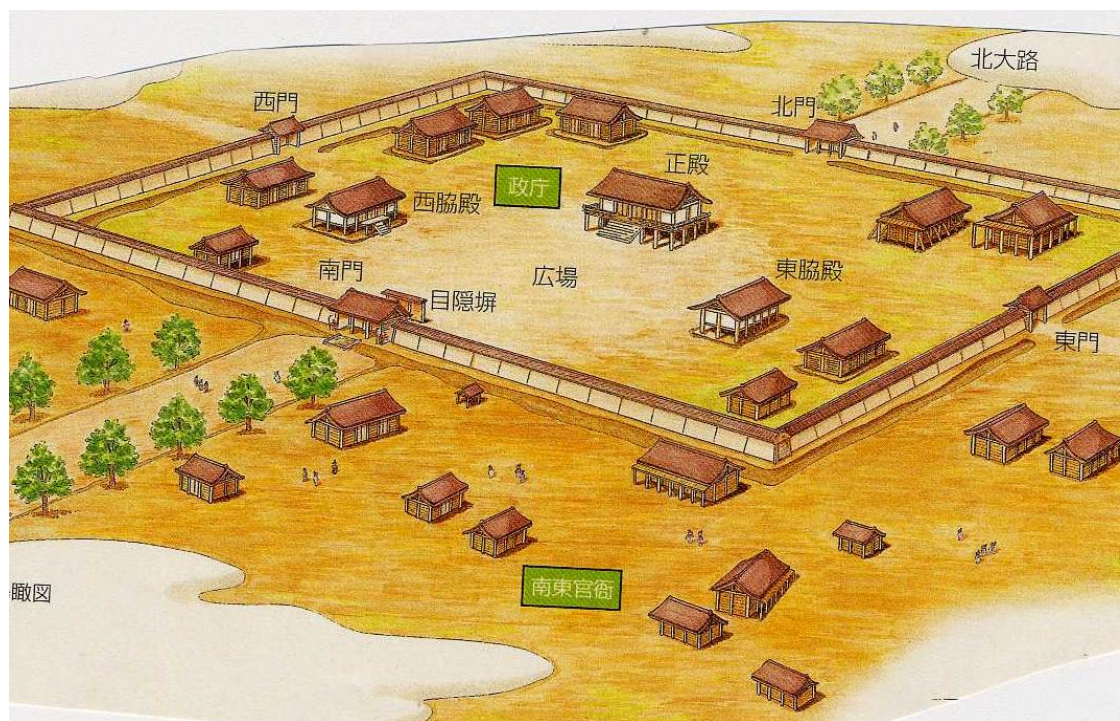
古墳文化

前方後円墳国家の領域

貝塚後期文化

(3)宮城県多賀城や岩手県志波(しわ)城などの城柵にみられるように、律令国家(の前身)は北東北を武力的に支配しようとした。

(4)人と人の統治が前面に出ていた前方後円墳国家と、それを基本にしながらも土地を媒介にした律令国家の政治システムの差異が読みとれる。



延暦2年(803年)。一辺928mの土塁をともなう外大溝(堀)と、一辺840mの築地塀によって外郭。

